

《第 44 号》「これからのエコライフ」

谷茂岡正子(NPO 法人東京都地域婦人団体連盟 会長)

昨年 3 月の東日本大震災、それに続く原発事故、この災害にいろいろな教訓を受けました。わたしたちが住みなれた地域で安心して暮らすことが、いかに大切かとあらためて感じています。暗くなりがちな暮らしの場に元気を生み出す活動に、知恵や工夫がもとめられつつあります。原発に頼りすぎたエネルギー政策の根本的な見直しをはかり、地球温暖化対策と合わせて、エコライフ生活を推進していくことが大切だと感じています。

私たちの地域では雨水を利用して打ち水作戦を毎年やっています。グリーンコンシューマー運動は、消費者が商品・サービスの選択を通して自らの消費生活のあり方を環境の視点から見直して、環境に負荷がない省資源・省エネルギーの暮らしを選択する運動です。商品選びのための情報はまだまだ十分とはいえません。今回の原発事故で一人ひとりがもっと環境に配慮した暮らしを選択して欲しいと思っています。例えばリビングでエアコンの設定温度は夏なら 28℃、冬なら 20℃、ごみの捨て方は分別しルールを守って徹底行動。買物はマイバッグを持って。住宅設備では太陽光発電システムや太陽熱温水器を導入などなど。

私たちはできることから実施し、エコライフを進めることが、これからの原発に頼りすぎた暮らしを変えていくことになると思います。そのために、地域活動をする私たちは、声をあげ、国や自治体にも提案活動をしていく必要があります。

以上